東海村地域おこし協力隊
活動報告会

日　　時：令和4年3月26日(土)10:00～
会　　場：東海村役場403会議室

本日の日程

10:00～10:05	開会
10:05～11:00	活動報告
11:00～11:05	質疑応答
11:05～11:10	亀下区自治会長挨拶(佐藤様)
11:10～11:15	緑ヶ丘区自治会長挨拶(冨永様)
11:15～11:20	村長挨拶(山田村長)
11:20～11:30	閉会

東海村地域おこし協力隊
活動報告会

日　　時：令和4年3月26日(土)10:00～
会　　場：東海村役場403会議室

自己紹介

東海村地域おこし協力隊

飛田　大地

■年　齢

22歳(1999年9月19日生まれ)

■出身地

茨城県東海村

■前住所

東京都(中央区➤渋谷区)

■趣　味

ボランティア活動

■特　技

バルーンアート，そば打ち，

就任までの略歴

平成30年3月県立水戸農業高等学校卒業

・食品科学部，バイト2つ掛持ち，高校生会会長(1年時)，農業クラブ庶務，クラス代表，様々な事に挑戦するパワフル高校生！！
・食品科学部では製菓製パンのほか，そば打ちを習得
・ボランティアには特に力を入れ年間40件以上の活動に参加。県内の小中高生や行政職員，活動関係者と確かな関係を構築しました。

都内で130年続く寿司屋の見習いとして就職

・「銀座4丁目」「伊勢丹会館」の2店舗で調理，接客を勉強
・上京後も月に１回以上茨城に戻りボランティア活動に参加
・想像以上に過酷な職場に限界を感じ，退職を考えるように。
・ボランティア活動中に協力隊の話を聞き退職を決意し応募。現在に至る。

なぜ地元の協力隊になったか

「「ありがとう」と人から言われる仕事をしたい！！」

実は茨城に戻るにあたって，別市町村の臨職，ホテル調理，研修施設職員，介護施設など様々な仕事に誘われました。

どの仕事も魅力的で悩みましたが，寿司屋時代の辛い経験の中で，自分を支え続けていたのは，**お客様から直接聞いた「ありがとう」**の言葉と心からの「笑顔」であったことを思い出しました。

「ありがとう」の言葉を最も多く聞ける職場はどこかを考えた時に地元の地域おこし協力隊になり，自分の村に恩返しをすることが最も多くの方を笑顔にでき，なおかつ「ありがとう」を聞けるのではと思いました。

東海村地域おこし協力隊のミッションについて

地域未来ビジョンについて

東海村地域おこし協力隊は**ミッション型**の協力隊で「地域未来ビジョン事業」として2箇所の自治会の地域活性化のための活動を行ってきました。

■「地域未来ビジョン事業」とは？

地域ごとに将来像や理想の環境（地域未来ビジョン）を思い描き、その実現のために今何をすべきか考え、具体的な取り組みに結び付ける活動のことです。

簡潔に言うと

「地域の将来のための話合いと活動」

これをサポートするのが私のミッションです！！

亀下区について

■基本情報

・村の北側の久慈川沿いに位置する地域。

・平均年齢49,37歳(Ｒ４.１現在)で子どもからお年寄りの割合が平均的な地域です。

・約40年間続く運動会や毎年行われる夏祭り等地域交流が活発な地域と言えます。

■地域課題

①地域行事のマンネリ化(夏祭り，運動会)

②安心安全な地域づくり(防犯や防災等)

緑ケ丘区について

■基本情報

- 村の東側に位置する戸建て団地。
- 平均年齢60,18歳(Ｒ４．１現在)で村内で最も高齢化の進む地域です。
- 近隣に商業施設がほとんどなく，一番近いスーパーまで約3kmほど。車があれば不自由なく生活できる地域。

■地域課題

①自治会主催の地域交流の場の減少

②高齢化に伴う多様な課題

(買い物，通院，空き家，スマホ利用etc)

1年目の活動

就任当初の意気込み

地域主体でそのサポートだったらそこまで気負わなくても大丈夫だろう！
デスクワークは苦手だけど地域に出ての活動がメインらしいしきっと大丈夫！
何かあったときは地域に住む友人や後輩を頼ればいいや！！

地域行事への参加

亀下区　第40回大運動会

亀下区で40年間続く運動会。令和元年度は自治会と総青年部，地域づくり推進課が協議を重ね開催。今までと違った競技を取り入れるほか，綿あめやポップコーン，かき氷を提供することで，3世代交流を促進しました。

緑ヶ丘区　茶話会

集会所内と外の公園にテーブルやイスを置き，料理や催し物を楽しむ地域交流行事です。

緑ヶ丘区ワークショップ(WS)

住民の方々と活動について話す最初の場

茶話会では自己紹介のみで，あまり住民の方と話すことができなかったため，今後の活動について話し合いのできる最初の場でした。

活動に対する疑問

未来ビジョン事業は協力隊の就任する約1年前から始まっていましたが，WSでの意見がまとまらなかったこともあり，今まで進め方に疑問を抱く方が現れました。

話合いの結果では，「ラジオ体操で地域交流を行う」となりましたが，寒くて人が集まらないだろうという意見もあり，年度明けを目安に開始することになりました。

両地区戸別訪問アンケート

緑ヶ丘区の戸別訪問

住民の方に顔を覚えてもらうため個別訪問アンケートを開始。
緑ヶ丘区は約300世帯あり，2か月ほどかけて訪問。
期待のまなざしや応援を多く聞くものの，それがかえってプレッシャーになっていました。

亀下区の戸別訪問

亀下区は約130世帯に回り，こちらも2か月ほどかけて訪問しました。
運動会以降ほとんどかかわることができなかった亀下区は意見がほとんどありませんでした。
また，この時期に亀下区でイベントに大きくかかわっていた「壮青年部」が解散し，国内で新型コロナウイルスが確認されました。

1年目のまとめ

両地域で自分の力量以上の期待によるプレッシャー
地域について何も知らないまま新型コロナウイルスが国内で流行。

職員にも頼ろうと思いましたが，何をどう頼ればいいかわからない

いわゆる「詰み」状態になってしまいました。

ちなみに両地域に友人はいましたが，県外の大学や仕事で忙しいため手伝えないと言われてしまいました。

現状にただただ困惑した1年目でした。

令和2年4月～令和3年3月

2年目の活動

2年目スタート時の心境

「協力隊を辞めたい」

就任数か月で心が折れました。
でも，まだ何もしていない。何もできていない。とりあえず行動に移してそれでもだめそうならやめようと考えていました。

「コロナのプレッシャー」

万が一自分がコロナになった場合，特に高齢者の多い緑ヶ丘区の方に多大なご迷惑をかけてしまうことに…

2年目の変化

関係部署への挨拶。

協力隊の現状を課長と補佐，地推課職員に相談。庁内の案内をしてもらい，関わりのありそうな課に挨拶に伺いました。(都市整備課，農業政策課，環境政策課)

企画の勉強

企画そのものを学ぶため，環境政策課主催のキャンドルナイトの企画に参加。コロナの影響により，中止になったものの，企画の進行など基礎的な事を学ぶことができました。

庁舎内の協力者

庁内で頼れる課が増えたことで住民と地域をつなげることが可能に。

緑ケ丘区　見回り活動と地域活動への参加

６月から見回り活動を実施。

村内に感染者が現れなかったことから６月上旬から活動再開

住民との接触を目的とした見回り活動を開始。

住民の方と奉仕作業

自治会長の紹介で団地内で活動している「クリーンの会」の除草作業や落ち葉拾いなどの活動に参加。

地域の問題を行政につなぐパイプ役に！！

役員会議に出席した際に「道路の停止線が消えかかっている」「猫の放し飼いに困っている」などの意見を受け，後日担当課に繋ぎ対応。

この活動が功を奏し，地域住民からの見られ方が変わり始めました。

緑ケ丘区の活動に対する気付き

住民の意見の多くが生活に係ることであった。

➤アンケート回収時にあった様々なご意見をよく見て，よく考えてみると，その多くが生活の足や買い物など生活に係る意見でした。

住民交流を目的とした企画の不承認

➤住民交流を目的とした企画を提案したものの，満場一致での不承認は企画の内容以前に求められているものが何か違うのではないかと確信しました。

活動方針を変更！！

<

様々な地域課題

地域交流を目的とした活動から地域課題解決のための活動に

亀下区の活動について

亀下区は地域交流も生活に欠かかせない一部

亀下区は川沿いの地域ということもあり，大雨や地震の際に大きな被害を受けやすい地域です。そのため，非常時の助け合いの精神が強く，地域活動を通し，住民との結束力を高めているようでした。

以上のことから地域交流も生活に欠かせない一つの取り組みであると言えます。

亀下区の新しい活動目標

既存のイベントがコロナ禍で全て中止に。コロナ禍でも活動できるイベントが地域から求められているように感じたため，「コロナ禍でも開催できる地域イベント」を新たな活動目標とした。

亀下区　焼き芋大会＆防災訓練

コロナ禍でも何かできないか

自治会長をはじめとした地域の方とこの対話を重ね，子ども向けの焼き芋大会を提案。そこに同時期に開催予定をしていた防災訓練(自治会新旧役員対象)を同時開催することで3世代交流を開催。

協力隊の能力発揮

子どもを対象に「バルーンアート」「飴のつかみ取り」「いもジィとの記念撮影会」などを実施。また，高校時代に培った人脈を駆使し，村内外の高校生やボランティア仲間を呼びイベントを運営することで自治会の負担を軽減しました。

元日の新聞に掲載

当日の様子は2021年元日の茨城新聞に掲載され，地域おこし協力隊の活動を理解し応援してくれる方が増えました。

活動再開の第一歩

東海村の地域協力隊・飛田大地さん

風船アート待つ子ども

子どもたちにバルーンアートを手渡す東海村地域おこし協力隊の飛田大地さん＝同村亀下

「お花作って」「昨年12月
がいい。」昨年12月
村北部の亀下区自治
かれた子ども向け
ト。バルーンアート
には、子どもたちが
って待っている。
作るのは、東海村
こし協力隊の飛田大
(21)。子どもたちの
受けてクマや犬、ハ
ステッキなどの多彩
を手際よく作っていた。
新型コロナウイル
響で自粛生活が続く
々のイベントに飛田
子どもたちの喜ぶ
ることができてうれ
と笑顔を見せた。
同村白方地区生
0
019年10月から
ての同隊員となり、
と南部の緑ケ丘区の
決に取り組むのが
着任後、イベン
したり、アンケー
していた住民の声を
動自粛に追い込まれ

亀下区　次年度の活動打ち合わせ

多面的機能支払交付金(以下「多面交付金」)の利用

農業政策課では圷土地改良区に多面交付金の利用を推進。圷土地改良区に属する亀下区も多面交付金の対象となり農地の多面性維持に係る事業に交付金が出るように。

多面交付金とは？

農地のもつ「生物の多様性の維持」「土の保水機能」「ダムとしての役割」「農村景観」等の様々な面を維持するための団体に支払われる交付金です。

主に2つの交付金で構成されており，除草作業や水路の泥上げ等の**「農地維持」**と**地域住民との交流活動**に支払われる**「資源向上」**の2種類があります

簡単に言うと

「地域を巻き込んだ農地整備作業でもらえる交付金(資源向上)」

くらいに思っていただければ結構です。

多面交付金と地域未来ビジョンの共通点

多面交付金，地域未来ビジョンの**両方の目的である「地域活動」**は多面交付金では**「地域資源向上」に該当し**，「農地維持」と合わさることでより多くの交付金が支給されることになります。

多面交付金は**5年間続けなければならない**という一見デメリットともとれる規定がありますが、地域未来ビジョン事業にとっては地域活動の継続が確実になるためメリットと言えます。

※ここでの「地域活動」は地域(学校，自治会等)を巻き込み除草作業や土砂上げなどの**農地整備作業**やビオトープの作成・管理，植物の植栽活動などの**地域資源の維持管理**が該当します。

地域住民にとって多面交付金のメリット

コロナ禍の貴重な交流の場

**コロナ禍で地域同士，顔を合わせる場が減少。
活動を通して地域の結束力を強化！！**

日当が支払われる

1時間当たり約1000円前後支払われます。地域交流もできて一石二鳥！！

環境美化による地域活性化

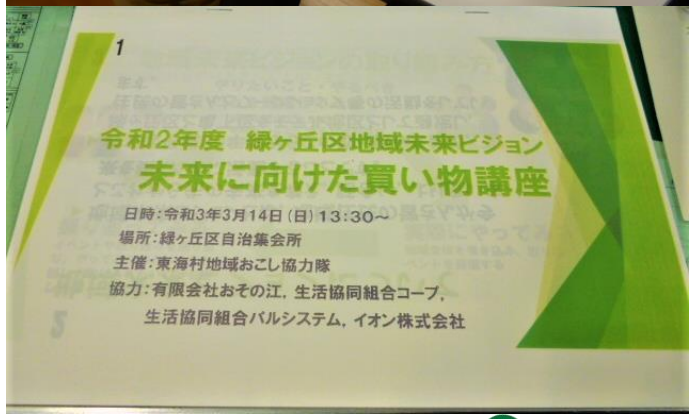
他府県では実際にひまわりや秋桜を耕作放棄地に植えて町おこしをしているところも

緑ヶ丘区　未来に向けた買い物講座

役員会議で提案

緑ヶ丘区はアンケートの結果を基に買い物講座を定例役員会議にて提案。承認され開催が決定しました。

移動販売の「くるくるマルシェ」生協の「コープデリ」「パルシステム」イオンの「イオンネットスーパー」の4社の紹介をすることになりました。



地域に寄り添った企画

当日の進行の仕方や資料の見やすさなど個人的な反省が多々あったものの，後日「地域を思った活動だ。」と参加者に褒めていただき，活動の方向性が間違いではなかったと実感しました。

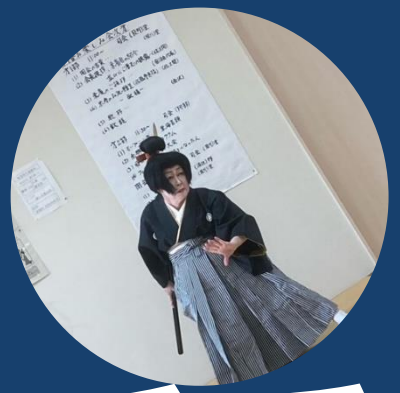
2年目のまとめ

緑ヶ丘区では住民の方と行政をつなぐパイプ役や地域活動の働き手として，住民の方からの信頼を徐々に得ることができました。

亀下区では新しいイベントの実施と来年度に向けた話合いで活動についてのビジョンを共有することができました。

年度初めは大コケしたものの，自分が入れる場面や機合，隙を探し，徐々に立て直した1年でした。所属している地域づくり推進課以外に環境政策課，都市整備課，農業政策課など庁舎内に相談できる課も増え,1年目の時と状況が大きく変わりました。

地域が求めるものを理解し，信頼を築いた2年目



3年目の活動

3年目スタート時の心境

「活動仲間が欲しい。」

地域活動を通して，活動仲間がもっといたほうがいいなということに気づきました。地域に合わせた活動にはどうしても人手がいる。ただの人手ではなく，活動を理解した上の協力者・仲間がいると思いました。

「様々なプレッシャー」

地域の要望に応えた活動ができるか，1年間で何を地域に残せるか。住民と良い関係を維持できるか，溜まった任務を処理しきれるか。数えだしたらキリがありませんでした。

3年目の変化

住民との関係性向上

住民から活動に参加してほしいとの依頼が時折いただくようになり，住民活動への参加も歓迎していただけるようになりました。

知人たちの協力

焼き芋大会を機に，先輩や後輩，友人が自分の活動に興味を示してくれるようになり，気軽に声をかけてほしいと協力してくれるようになりました。

東海村社会福祉協議会との連携

企画資料の共有や村社協主催イベントの参加などお互いに協力し合う場が増えました。

3年目の活動目標

緑ヶ丘区「デジタル化の波に適応」

コロナ禍により，急激にデジタル化が進む中で，高齢者が取り残されている現状があるため，これらの解決を目標に設定しました。

デジタル化に適応する人が生まれることでその周りにスマホ利用について教えてほしいという人が集まり，当初の目的でもあった新たな地域交流が生まれることを期待しています。

亀下区「コロナ禍でも可能な企画の実施」

引き続き，地域交流を目的とした活動を実施。

また，多面交付金の活動が始まることから趣旨に合った企画の実施を目標にしました。この交付金を活用してこれまでにない新しい地域交流が生まれることを期待しています。

緑ケ丘区　LINEはじめて講座

買い物講座から発展

前年度に開催した買い物講座のアンケートの際にスマホの利用やＬＩＮＥについて知りたい・教えてほしいとの声が多数上がりました。

村社協を始め、知人や地元のボランティアの協力

前年度に同様の講座を開催した村社協から資料提供のご協力をいただき，それを基に新たな資料を作成。当日は高校時代のボランティア仲間や現役のボランティアの協力を得ながら開催しました。

マンツーマン指導

緊急事態宣言解除後すぐのイベントであり、参加者が少なかったことで，良い意味でマンツーマンの指導を行うことができました。

亀下区　多面的機能 彼岸花の植栽活動

彼岸花の球根を約300個植栽

当日は小雨が降っていたものの約100名が集まり除草隊と植栽隊に分かれて実施。彼岸花は球根から開花するまで2～3年かかりますが，9月には約20輪ほど花が咲いているのが確認されました。

彼岸花を植栽した理由

花が綺麗で，病害虫に強く，痩せた土地でも育ち，毒性による害獣への忌避作用，土砂の流出防止，キク科植物に対するアレロパシー作用などの効果が期待されます。また，分球で少しづつ増える植物であり，仮に翌年に植栽ができない場合でも花が少しづつ増えるなどメリットが多い植物だからです。

緑ケ丘区　遊話サロン＆スマホミニ講座

地域交流とスマホに対する理解のために

ワークショップでの意見にあった地域交流の場(サロン活動)と前回のＬＩＮＥ講座に続くスマホ利用の悩み相談の場として「遊話サロン＆スマホミニ講座」企画・開催しました。

参加者全員がスマホ講座に

当日の参加者全員がスマホミニ講座目的であったことから，スマホミニ講座のみの開催としました。ここまで参加者が片寄ることを想定していなかったため，進行に乱れが生じたものの，何とか終了しました。

改めて求められているのは「住民交流」ではなく，「生活に係る取組み」だと感じました。

緑ケ丘区　地域活動中のスマホ指導

デジタル化が進む中での焦り

スマホやパソコンをうまく使えないと，今後の生活に大きな支障をきたすのではと不安に思う方が多くいました。。

講座を企画してスマホ等の使い方を伝えるのではなく，日常的に地域に入り込み教える必要があるように感じました。

遊びの要素を加えた使い方

スマホ＝「難しいもの」「若者が使う物」のイメージを壊すため，定期的に集会所で活動している方たちに声をかけ，活動を実施。

音声入力(音声検索)等の便利な機能の説明のほか，あえて若い人が使うようなアプリを使い，**スマホの楽しさ**を知ってもらいました。

➤snowを使った写真を家族に送信し話が盛り上がったと後日お話を頂きました。

亀下区第2回焼き芋大会＆防災訓練

協力隊初の2年連続イベント

前年度に引き続きコロナの影響で地域イベントが減少している中，コロナ禍でも開催可能できるイベントを提案。地域からも承認され2年目となる「焼き芋大会＆防災訓練」を実施。

前回からの改善点

マンネリ化しないよう飴のつかみ取りに替えて,新しく綿あめとポップコーンの配布を実施。その結果，子どもの参加者が増加。子どもの保護者も参加することで前回よりも賑わいました。

焼き芋の芋も多面交付金を用いて村が育てた芋を寄付していただき調理配布。多面交付金の周知と住民交流の両方を行うことのできた企画となりました。

Lien×協力隊　チャリティーそば打ち

村社会福祉協議会主催の座談会での出会い

村社協主催の「まるっとプロジェクト」と呼ばれる座談会で村内でコミュニティースペースを営むLienの葛西さんと出会い，意気投合。亀下区の宮本荘一さんをはじめとする地域の方とそばを打ち，Lienをお借りして販売しました。売上はそば粉をいただいた東海村社協の実施するフードバンクに寄付。寄付で購入された食材はひとり親家庭などに配られました。

新たな人間関係の構築

今回のイベントを通し，今までにない新たな人間関係も構築できました。本来であれば今回つながることのできた人達と担当地域でイベントを実施したかったのですが，新型コロナや私の力不足により実現はできませんでした。

緑ヶ丘区　移動販売及び生協利用に関する説明会

「パルシステム」と「とくし丸」の説明会

高齢者の買い物支援の一環として中丸地区自治会と協力し生協の「パルシステム」と移動スーパーの「とくし丸」の利用方法の説明会を開催。

3月25日(金)緑ヶ丘区運行開始

当日は、集会所に30人近くの住民が集まり，買い物を楽しんでいるようでした。住民の方から「車を使わなくても買物ができるのは便利」「まだ車に乗れるが，こちらも使っていきたい」などの声を聞くことができました。

販売員の阿久津さんは明るい人柄で早くも緑ヶ丘区の住民の方に受け入れてもらえているようでした。

亀下区　多面的交付金防草シート施工作業

土砂上げ作業からスタート

シート施工前に用水路内の泥上げを実施。

当初用水路があることすら分からないほど泥が堆積しており，深いところでおおよそ７０ｃｍ。重機と人力を駆使し2日間かけて何とか終了しました。

協力隊として最後の活動

防草シートの施工作業は土曜の午前に地域住民60名と実施。この活動が地域での隊員の最後の活動となりました。

3年目のまとめ

緑ヶ丘区では，スマホは電話しか利用できなかった方が，**LINEや写真の撮影等ができるように**なりました。また，中丸地区自治会が主となり，買い物難民対策という地域課題の解消に向けて一歩前進しました。

亀下区では多面交付金を用いた事業のほか，自治会活動で2度目の焼き芋大会・防災訓練を開催したことで**コロナ禍以前のような地域交流の場をつくる**ことができまし。

緑ヶ丘区は**地域の未来を考え行動する地域**に，亀下区は**コロナ以前の交流を取り戻した**と思います。派手な活動はできなかったものの結果として成功だったと思います。

以上で活動報告を終わりにします！
ご清聴ありがとうございました！！

質疑応答